

令和3年度第2回金沢市地球温暖化対策推進協議会 議事要旨

■日 時 令和3年11月16日(火) 15:00～16:30

■場 所 金沢市役所第二本庁舎3階 2301会議室

■出席者 (順不同、敬称略)

会長	佐藤 清和	金沢大学教授
	神 和成	一般社団法人石川県木造住宅協会副会長
	新田 英治	北陸電力(株)石川支店総務部長
	瀬戸 和夫	金沢商工会議所環境問題委員会委員長
	多田 幸生	金沢大学教授
	中山 晶一朗	金沢大学教授
	能木場由紀子	金沢市校下婦人会連絡協議会会長
	道脇 香里	金沢エコライフくらぶ
	宮井 利之	金沢エコ推進事業者ネットワーク代表運営委員
	須崎 秀人	市民(公募)
	野吾 奈穂子	市民(公募)

※欠席 宮下 智裕 金沢工業大学准教授

事務局	吉田 康敏	金沢市環境局長
	山口 和俊	金沢市環境局環境政策課長
	山田 博之	金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室長
	南 友貴	金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主査
	中川 久美	金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主査
	野村 勇介	金沢市環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主事

■会議次第

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 議 事

(1) 報告事項

- 1) 金沢市の温室効果ガス排出量(2019(R1)年度速報値)について
- 2) 「金沢市低炭素都市づくり行動計画[改定版]」の点検・評価結果について
- 3) 「金沢市再生可能エネルギー導入プラン」の点検・評価結果について
- 4) 令和3年度啓発事業について

(2) 審議事項

金沢市地球温暖化対策推進協議会令和4年度事業案について

4. 閉会

1. 開会

(事務局)

それでは定刻となったので、ただいまより令和3年度第2回金沢市地球温暖化対策推進協議会を開催する。委員の皆様には大変お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。本日、宮下委員については所用により欠席されている。

はじめに、吉田環境局長よりご挨拶申し上げます。

(吉田局長)

本日は、お忙しい中、ご出席を賜り心からお礼申し上げます。

また、委員の皆様方には、日頃から本市の環境行政にご理解とご協力を賜り、感謝を申し上げます。

さて、昨年、今年は新型コロナウイルス感染症に翻弄されていたものの、「新しい生活様式」の普及や、ワクチン接種の拡大等によりなんとか小康状態となっている。他方、事業に目を向けると、これまで通りの形態での実施ができなかったものの、開催方式の変更や動画配信等により、コロナ禍に適応した形での実施をすることができた。今後も、ウィズコロナを想定した柔軟な対応があらゆる場面で求められていくと考えている。

世界に目を向けると、先月末から1年越しで、COP26がグラスゴーで開催された。その中で岸田首相がアジア全体のゼロエミッション化を推進する事を述べたように、我が国にはアジア諸国のリーダーとしての取組が求められている。また、SDGsの普及等により、市民のみなさまの地球温暖化対策への関心も非常に高まってきている。本市としても昨年3月に表明したゼロカーボンシティの実現に向け、市民、事業者、行政が連携してこれまで以上に温暖化対策に取り組んでいく必要がある。

そのような中で、本協議会の役割はますます重要なものとなってくるので、今後とも皆様からのご協力を賜るようお願い申し上げます。

本日は、低炭素都市づくり行動計画の進捗評価や来年度の事業の方向性などについて、ご意見を伺いたい。

限られた時間の中ではあるが、どうか委員の皆様方からの貴重なご意見、ご助言を賜るよう心からお願いを申し上げ、簡単ではあるが挨拶とさせていただきます。

会長挨拶

温暖化の問題は世界的に盛り上がりを見せているが、もう少し小さな目線で、地域には何ができるか、地域毎の多様性でもって問題解決に当たることもまた非常に重要な視点であると考えている。

本協議会も、金沢市という一つのエリア内における、市民・事業者・行政の集まりであり、まさにダイバーシティの集団であるといえる。地域に実情に即した、地域の強みを生かした温暖化対策に関する協議をこれからまた展開していきたいと考えている。

本日の会議は、多数の報告事項及び来年に向けた審議事項もある。ぜひ委員の皆様においては、忌憚のないご意見、活発なご議論をお願いして挨拶に代えさせていただきます。

3. 議事

(1) 金沢市の温室効果ガス排出量(2019(R1)年度 速報値)について

(事務局) 資料1をもとに説明

(委員)

廃棄物部門からの温室効果ガス排出量について、全体量から見ると大きくはないが、増加している。増加の要因としては廃プラの輸出が難しくなり、国内で焼却処分されているのが原因なのか。加えて、前年と比較して減ったというのは、ごみの量が前年度よりも減ったからということなのかお聞きしたい。

また、脱炭素というと炭素循環の話に目が行きやすく、大きな要素とはいえないが、メタンとフロン系が増えている原因は、エアコンの整備が進むも10年20年と老朽化してきたものが増えていることが原因であるという認識で良いのかも併せてお聞きしたい。

(事務局)

確認して後日返答させていただく。

(委員)

本件は報告事項ということで、コメントだけであるが、再生可能エネルギー関連の施策については、さらに加速が必要ではないかと考えている。

(2) 「金沢市低炭素都市づくり行動計画[改定版]」の点検・評価結果について

(事務局) 資料2をもとに説明

(委員)

私は御所町に住んでいるが、同町内で、最終的には事業自体が頓挫したとのことだが、山を削って太陽光パネルを設置していたように見受けられる。このような形で、山を削ってまでソーラーパネルを設置するのはいかがなものかと思う。

このような事案については、市はどうお考えか。

(事務局)

山林は、CO₂を吸収する吸収減ということで、非常に重要だと考えており、それらを切り開いて太陽光パネルを設置するのは好ましくないことである。再生可能エネルギーの促進は新しい計画にも記載のとおり重要だと考えているが、一方で吸収源である森林保護も大切な要素であるので両者のバランスをとって推進していかなければいけないと考えている。

(委員)

今の話に関連し、金沢市の方で太陽光発電設置の規制条例等を定める予定等はあるか。

(事務局)

全国各地で太陽光発電規制等の条例が制定されているというのは、承知している。本市における必要性についても十分認識しており、検討していきたいと考えている。

(委員)

山を削って太陽光発電設備を作るという申請は多いのか。未利用地に設備を設置するのならまだしも、山林を伐採して行うのはいかがなものかと思う。事業の許可はどこがしているのか。

(事務局)

再エネ発電施設についての許可権者は経済産業省の資源エネルギー庁である。本市としては開発の段階で、関係部署間で連携して対応していきたいと考えている。申請自体は市に出てきていないので、どれだけの計画があるかは把握していないが、経産省のHPでFIT申請の把握はしている。

(委員)

土地利用については地権者のモラルも問われてくることと思う。

少し違う視点の話であるが、過去の協議会で市民の再エネ由来電力の使用率の捕捉に関する話があったかと思うが、今の進捗を教えて欲しい。また、太陽光発電の補助金交付というのはやはり一軒家が多いのか。

(事務局)

市民の再エネ由来電力の利用率については、毎年、eモニター制度を利用し、市民200名を対象に環境に関するアンケートを採っているが、今年度は、再エネ比率の高い電気を買っているか、100%再エネ電気を買っているか、利用しているかというような設問を作り、情報収集をした。

結果としては、再エネ比率の高い電力契約であるとか、再エネ100%の電力にしているという方は200人中、8人となっており、太陽光発電設備を設置している方については、200人中11人という結果となった。

複数回答可になるので、各選択肢の回答者数の総和は200にはならないが、特に利用はしていないという方については、188人であった。

この結果から、再エネを生活に取り入れるということはなかなか根づいていないというのが現状である。

そういったものも絡めて、今後の啓発等をさせていただきたいと思っている。

なお、太陽光発電設備の補助金交付についてはやはり一軒家が多い。

(委員)

再エネ電力を取り入れているのが8人もいたのかと逆に驚いている。この8人に、なぜ取り入れたのか理由を聞いて、他の市民に知らせることができれば、啓発効果を高められるのではないか。

(事務局)

可能な限りで分析をさせていただきたい。

(委員)

これはいつ採ったアンケートか。

(事務局)

6月18日から7月2日の期間である。

(委員)

市民の声を直接拾うのは非常に大事である。

eモニターアンケートの回答内容を本協議会の報告に加えられた方が、議論が活発になっていいのでは。また、先ほどの話のとおり、導入理由をツイッターやフェイスブック等で発信すると効果があるのではないか。

(事務局)

SNS等、どのような媒体を使えば効果的なのかというところもあわせて検討させていただきたいと思う。

(委員)

他に、HEMS等の、知識の無い人には馴染みの薄い機器等の導入理由を聞けば自分事として考えてくれるようになる人も出てくるかもしれない。先ほど、話のあったSNS等に掲載するといった話を念頭において、設置者にヒアリングするということは意義があるものであると思う。

(事務局)

そういったヒアリングがeモニターの運用上可能かも含めて検討させていただく。

(委員)

評価がSになってる項目を見てみると、グリーンカーテン等があるが、目標値5%は低いのではないか。

他の項目にも言えることかもしれないが、目標設定は実際の実施状況を見て見直しを図っても良いのではないか。

(事務局)

目標については、計画推進部会でも話題に上がり、再検討というのはまた必要になってくるだろうという議論もあった。こちらに関しては部会等で検討させていただき、また皆様にご報告等差し上げたい。

(委員)

ごみのリサイクルについて、基本方針の廃棄物の発生抑制について、数字的には2015年から2019年にかけて、排出量が少なくなっている。

私たちも、自分たちのごみ排出は最小限ですむようにリサイクルを推進している。

多くの人で取り組めば、ごみの発生抑制に大きな効果があると思うので、これからも声を上げて、ごみを一つでも少なくする様に務めていきたい。

(3) 「金沢市再生可能エネルギー導入プラン」の点検・評価結果について

(事務局) 資料3をもとに説明

(委員)

第二本庁舎のクールトレンチは見えるのか。見えるのなら新たな見学先候補として見学出来るのではないか。

(事務局)

残念ながら見ることはできない。

(4) 令和3年度啓発事業について

(事務局) 資料4をもとに説明

(会長)

先ほどアンケートの活用の方法など話題に挙げたが、ゼロカーボンシティかなざわ発信事業の中でも、今回話題に挙げた導入理由などを取り上げられることはお考えか。

(事務局)

導入理由まで追究できるか分からないが、可能な限りで内容を盛り込んだ上で、発信していきたいと思っている。

(委員)

来年度の話になってしまうかもしれないが、結ネット（地域の電子回覧板や安否確認システムとして活用が可能なスマートフォンアプリ）に金沢市が加入しているなら、そこでゼロカーボンシティかなざわ SNS の PR をしてもよいのではないか。

(事務局)

そういったものの活用について研究して参りたい。

(委員)

新型コロナウイルスの感染状況などにも左右されると思うが、エコフェスタ会場で、SDGs カードゲーム体験会等してみてもよいのでは。

私も体験したことがあるが、大人も子どもも学びが深いものである。

ファシリテーターも石川県におり、そのような機会を設けるのも、意義があると思う。

(事務局)

SDGs カードゲームということで実施、広報することで SDGs に興味のある方がイベントに集まってくれるかもしれない。

前向きに検討させていただきたい。

(委員)

結果的に2年間エコフェスタ中止ということで、再び開催する時にはノウハウの流出等により、開催に係る事務負担が大きくなることが想定される。他方でツイッター等の SNS への対応もあり、両者を合わせた労務負担はととも大きいのではないか。

SNS での発信事業については e モニターアンケートの結果や、計画の進捗等をまとめたものであるとか、軽い労務負担で可能なものにしないと、従来の事業方式とデジタル化が進んだ事業方式との両立は難しい。来年度はその両立を考える年度になるのではないか。

エコフェスタとして懸念しているのは、長いコロナ禍を経て、イベントに参加する習慣が消失し、思ったように集客が出来ない事が想定される。

(事務局)

SNS 発信事業については効果的かつ効率的にできる方法を検討させていただきたい。

(委員)

労務負担を減らす方法だと、金沢市が自ら発信するのではなく、例えば、エコライフくらぶさん等関連団体のリンクをはる等、そういったことだけでもいいのではないか。

(事務局)

たしかにそういった団体の紹介をするだけでも一定の効果はあるように思う。現在、関連団体のリンクというようなページは金沢市HPにはないが、HP内のQ&Aの中で【金沢市の環境にやさしい活動をしている団体を教えてください】という質問を設け、石川県のホームページや本市市民協働推進課のページにリンクを貼っている。

(委員)

エコライフ推進事業というのは、低炭素都市づくり行動計画の、施策1から5までの中の、2の施策の位置づけということでしょうか。

(事務局)

そのとおりである。

(委員)

2年間コロナ対策で従来とは違った形で事業を進めてきたことと思う。今後従来の形式に戻っていく中で、以前から課題であった企業向け対策を検討いただくのも必要ではないか。

(事務局)

事業者への取り組みについては、これまでも金沢エコ推進事業者ネットワークを通じて進めてきてが、今後はさらに進んだ取組をしていきたいと考えている。

(会長)

では、令和4年度事業案について、承認することとしてよろしいか。

(異議なし)

(会長)

では、以上をもって会議の進行を事務局にお返しする。

4. 閉会

(事務局)

委員の皆様には長時間にわたり熱心にご議論いただき、誠に感謝申し上げます。
以上をもち、令和3年度第2回金沢市地球温暖化対策推進協議会を閉会する。